

平成25年度岩手県木炭品評会審査会について

平成25年10月3日(木)・4日(金)、久慈市の久慈地方森林組合を会場に一般社団法人岩手県木炭協会主催の「岩手県木炭品評会」審査会が開催され、審査委員として審査会を支援しました。

木炭品評会は、平成2年に当時の木炭ブームによる人気回復で生産量も回復したことから、28年ぶりに復活したもので、以来、品質・技術の維持向上と消費者へのPRを図るため開催されています。今年は、東日本大震災津波により休止した23年、24年から3年ぶりに開催されたものです。

1 審査概要

審査会は、出品受付時に一次審査の量目基準を通過した出品財を【切炭⇒長炭⇒茶炭⇒白炭】の順に二次審査が行われました。

審査項目は、包装、選別、加工、表面、断面、硬度、精錬度で、それぞれ基準点から減点法により審査し、合計得点で順位付けを行いました。二日目にはこの順位付けされた木炭を比較審査し、最終順位を決定しました。

なお、出品点数は101点で、炭種別では、切炭(65)、長炭(24)、茶用炭(10)、白炭(2)でした。

2 審査結果

入賞点数は出品数から決められ、最優秀賞は切炭、長炭から各1点、以下、優秀賞、優良賞、奨励賞と全部で14点が入賞しました。

3 出品物から見てきたもの

生産者は品評会の上位入賞を目指して出品していましたが、各審査項目ごとの結果を見ると、総じて、原木の確保が大変で、若齢原木と

老齢木の混在した温度管理、一窯分の炭材調整(主に含水率)には苦勞されたであろうと推察されました。

製炭者の原木確保においては、自伐であれ、購入であれ、その経費は上昇しています。今後も原木確保は大変と思われるので、これまで以上に品質の確かな製炭技術が重要となります。

審査会で見てきた製炭状況を現場で確認し、品質・製炭技術の維持向上を支援していきたいと考えています。



審査風景(審査項目:加工)



最優秀賞(長炭)